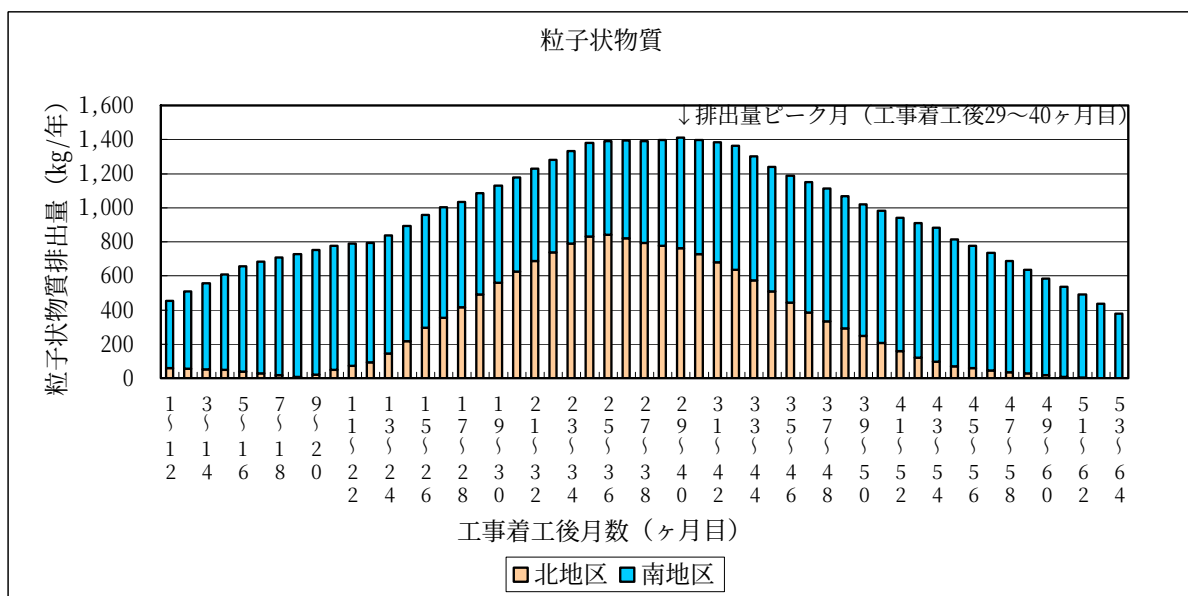
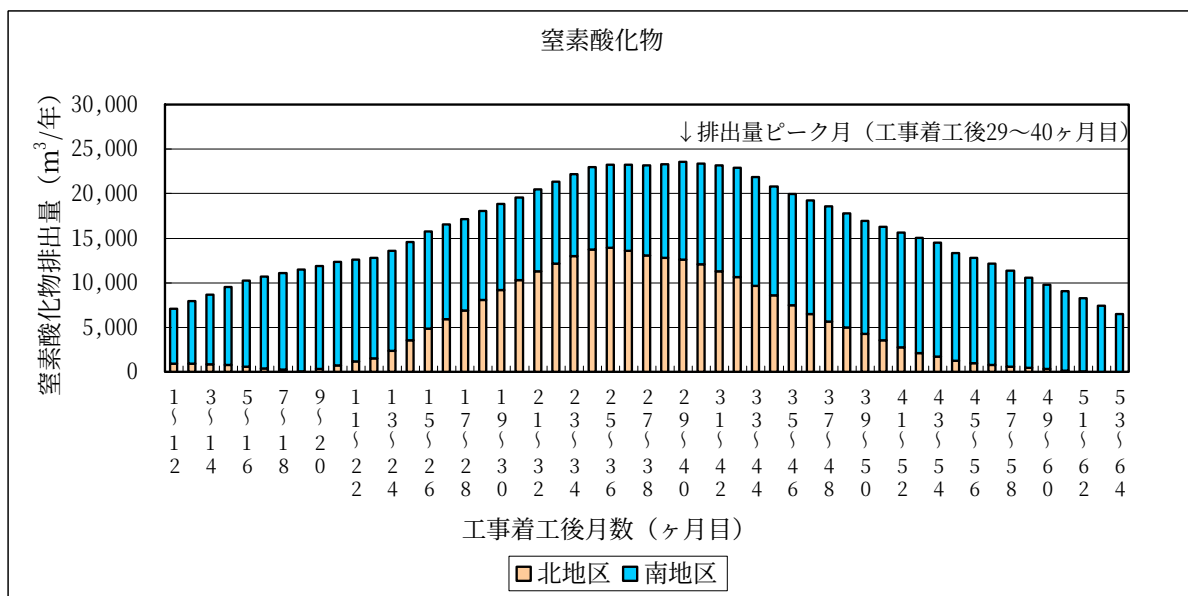


1. 大気質

両地区を合わせた建設機械の稼働による窒素酸化物及び粒子状物質の年間排出量（12 ヶ月積算値）は、以下に示すとおりである。

予測時期は、両物質とも、排出量が最大となる工事着工後 29～40 ヶ月目とした。

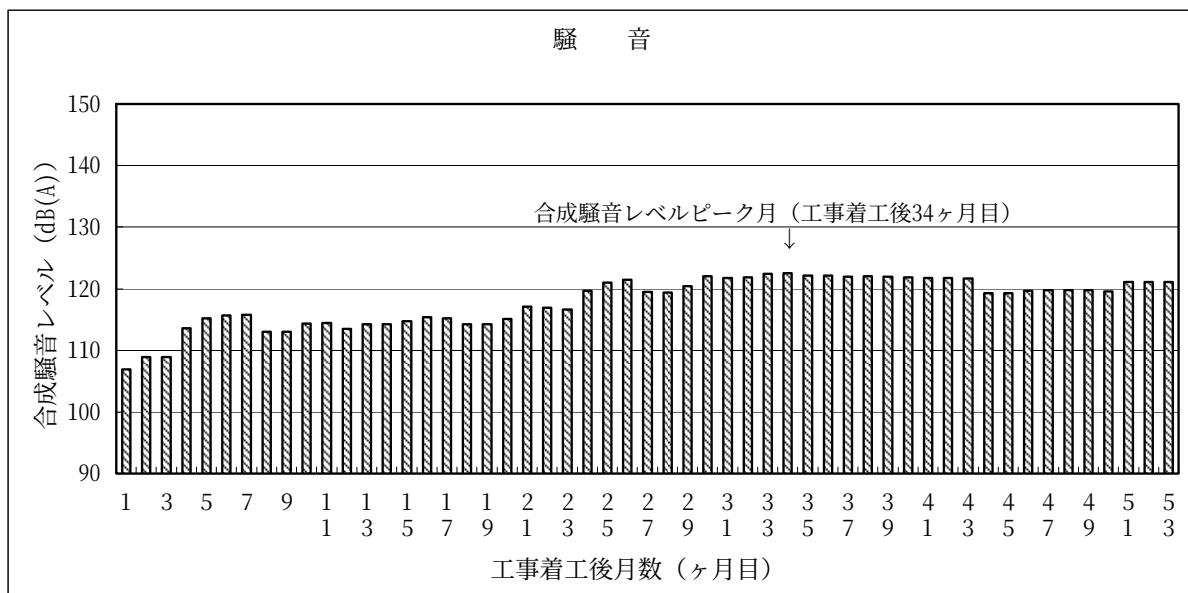


注）排出係数は、「道路環境影響評価の技術手法 第2巻」（財団法人 道路環境研究所，2007 年）に基づき算出した。

2. 騒音・振動

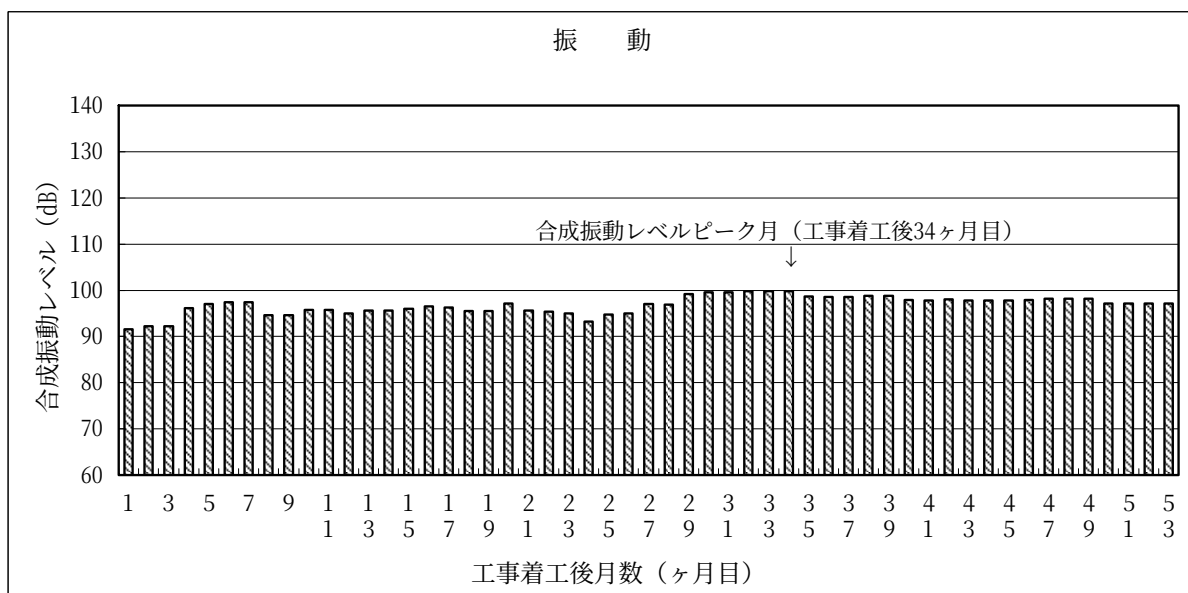
両地区を合わせた建設機械の稼働による合成騒音レベルや合成振動レベルは、以下に示すとおりである。

予測時期は、騒音及び振動ともに、合成騒音レベルや合成振動レベルが最大となる工事着工後34ヶ月目とした。



注)1:各建設機械の稼働による騒音レベルのベースを合わせるために、各建設機械の音圧レベルからA特性パワーレベルに換算し、これにより、合成騒音レベルを算出した。

2:各建設機械の音圧レベルは、添付－7（p.添付-14）に示すとおりである。



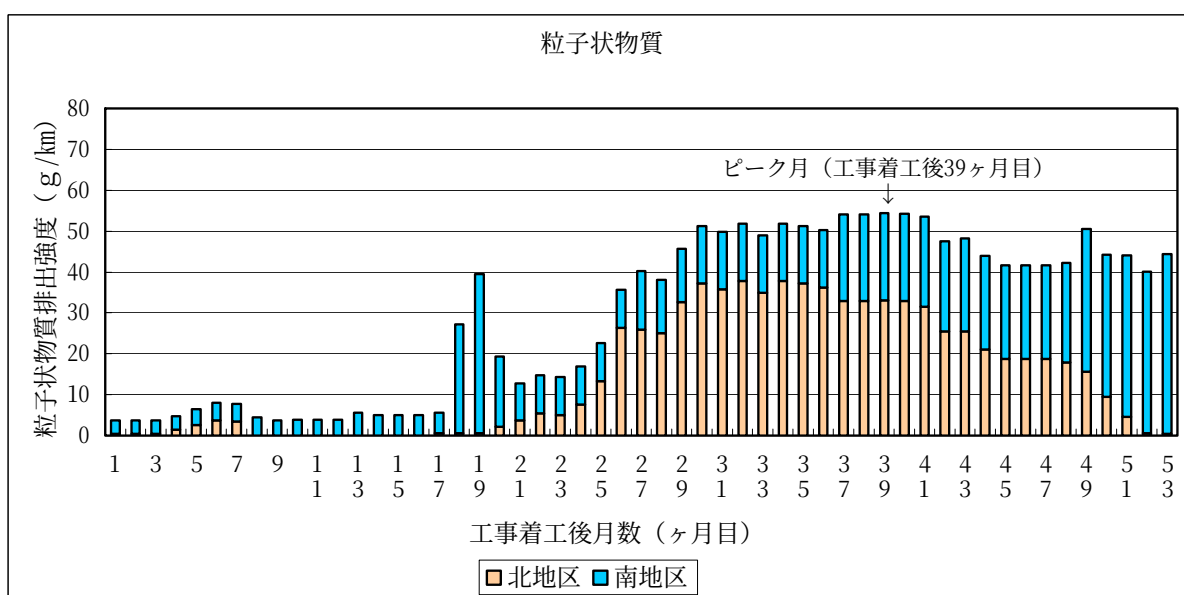
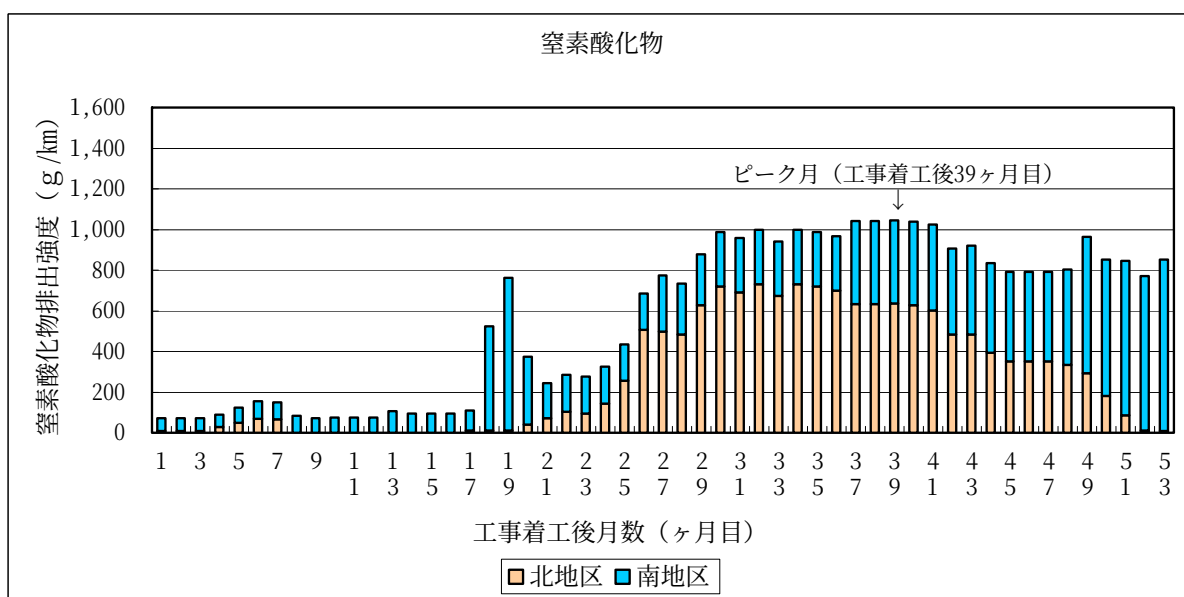
注)1:各建設機械の稼働による振動レベルのベースを合わせるために、振動源より基準点までの距離が1 mにおける振動レベルに換算し、これにより、合成振動レベルを算出した。

2:各建設機械の振動レベルは、添付－10（p.添付-22）に示すとおりである。

1. 大気質

両地区を合わせた工事関係車両の走行による窒素酸化物及び粒子状物質の排出強度は、以下に示すとおりである。

予測時期は、両物質とも、排出強度が最大となる工事着工後 39 ヶ月目とした。



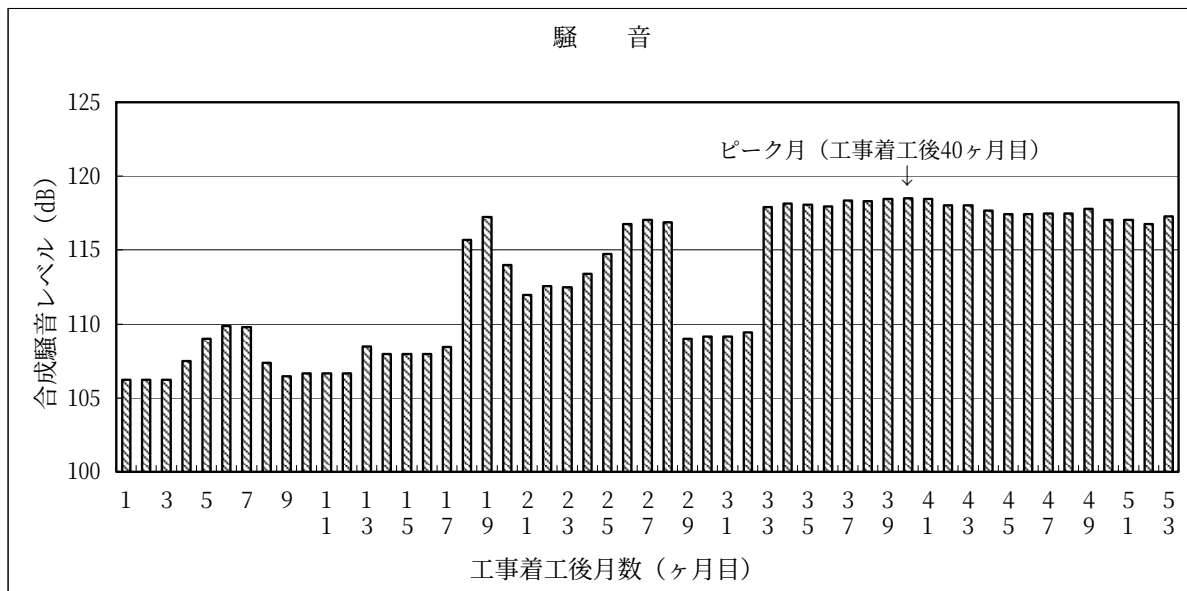
注)1: 排出係数は、「自動車排出係数の算定根拠」(国土交通省, 平成 15 年)に示す平均走行速度 60 km/時の数値を用いた。

2: 排出強度は、車種別工事関係車両台数及び排出係数を用いて算出した。

2. 騒 音

両地区を合わせた工事関係車両の走行による合成騒音レベルは、以下に示すとおりである。

予測時期は、合成騒音レベルが最大となる工事着工後 40 ヶ月目とした。



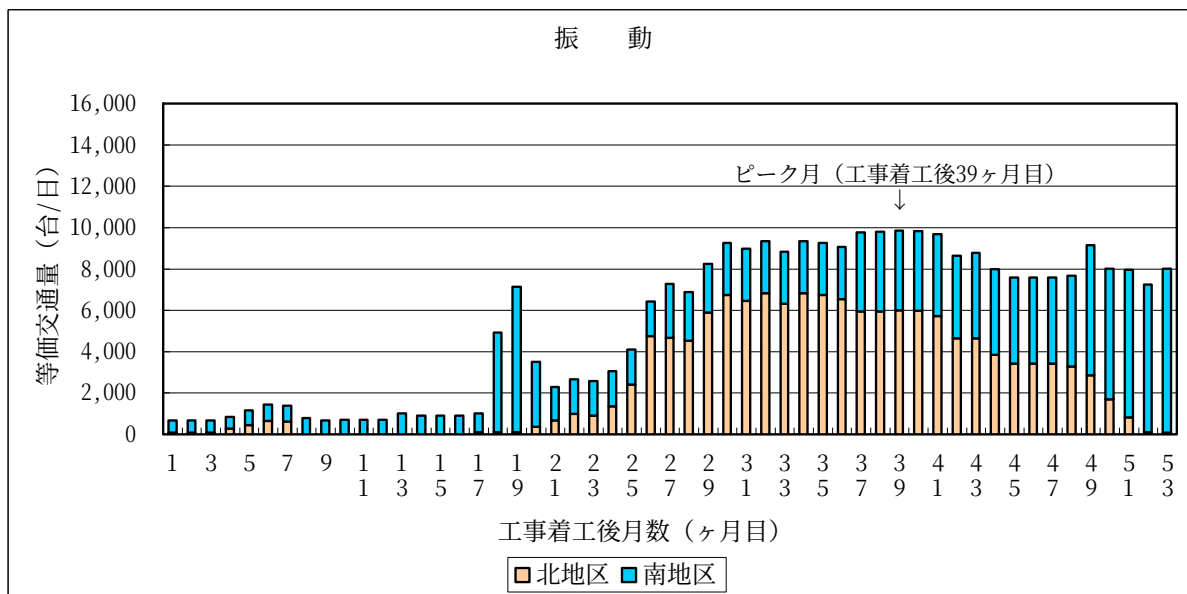
注)1:車種別パワーレベルは、ASJ RTN-Model 2008 に示す大型車 90.0dB、中型車 87.1dB、小型貨物車 83.2dB を用いた。

2:合成騒音レベルは、車種別工事関係車両台数及びパワーレベルを用いて算出した。

3. 振 動

両地区を合わせた工事関係車両の走行による等価交通量、以下に示すとおりである。

予測時期は、等価交通量が最大となる工事着工後 39 ヶ月目とした。



注) 等価交通量は、旧建設省土木研究所の提案式に基づき算出した。

4. 安全性

両地区を合わせた工事関係車両の走行台数は、以下に示すとおりである。

予測時期は、走行台数が最大となる工事着工後 44 ヶ月目とした。

